

会議議事録

事業名	令和7年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」事業 (4) 職業実践専門課程等の充実に向けた取組の推進①社会的評価の一層の向上のための共通基盤整備の推進
代表校	一般社団法人全国専門学校教育研究会

会議名	第3回事業推進委員会
開催日時	令和7年10月22日(水) 10:00~12:00
場所	ビジョンセンター西新宿
出席者	委員対面：五十部 昌克、松本 晴輝、原田 大五郎、 富田 伸一郎、沖 直彦、鈴木 弘明、秋本 泰行 伊藤 宏一郎 計8名 委員OL：氏部 正、山根 大助 計2名 請負業者：飯塚 正成 計1名 オブザーバOL：岡村 慎一 計1名 合計12名
議題等	<p>1. 会議の趣旨</p> <ul style="list-style-type: none"> 委員長挨拶： 今年度は「内部質保証人材育成講座」の試行実施と検証を通して、次年度以降の恒常事業化につなげる節目であると位置付けられた。 各委員が実務と検証を両面から進め、運営体制や教材改善、評価制度の確立を図るよう要請。 <p>2. 内部質保証人材育成講座の実施報告</p> <p>(1) 講座概要と募集状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 開催日程：福岡会場＝10月17日、東京会場＝11月5日。 形式：ハイブリッド方式(事前動画学習＋対面研修)。 募集開始後1週間で満席となり、福岡21名、東京24名を確定。 申込超過者(6名)はオンライン受講対応。 参加者は専門学校職員、教育団体、行政機関職員などで構成。 対面では演習・グループ討議を重視する形式とした。

(2) 講師・ファシリテーター構成

- 福岡会場:山根・秋本・八木
- 東京会場:沖・鈴木・伊藤
- 全体統括:事務局飯塚
- ファシリテーターは、動画内容を踏まえて各セッションを実践的に補足する役割。
- 今後は講師間で使用スライド・話法・進行テンポを統一し、講座品質の標準化を図る。

(3) 動画教材と LMS 運用状況

- LMS(ウイネット)にて 10 月 14 日より配信を開始。
- 八木委員制作の動画(全 4 章・24 本・総再生時間約 6 時間)を使用。
- 各動画は 1 スライド単位で編集され、差替え・改訂が容易な構成。
- LMS 上では受講履歴・視聴率を自動記録し、修了証発行データと連動できる。
- 現状、システムは安定稼働しているが、音量差・再生速度設定などの改善要望が出された。

(4) 参加者対応

- LMS アクセス方法と学習マニュアルを 10 月下旬に送付予定。
- 視聴期間は 11 月末までとし、会場参加者も事前視聴を必須とする。
- LMS 上での質疑・フィードバック機能追加を検討中。

3. 教材・システム関連の報告と改善事項

(1) 教材制作上の課題

- 音声の収録レベルが章ごとに異なり、再録や音量調整が必要。
- 図表・グラフの文字が小さく、特にスマートフォン視聴時に可読性が低下。
- 動画全体の色調統一、スライドデザインの再整備を求める意見が複数。

(2) 理解度確認テストの導入

- 現段階では未実装。11 月中に導入予定。
- 各章 10～15 問、全体で 40～50 問程度。
- 出題形式は四択＋正誤混合。
- 八木委員が作問リーダー、伊藤委員が LMS 入力を担当。
- テスト結果を修了証発行条件に組み込み、一定基準未滿は再受験可能とする。

- テスト結果の統計を次年度以降の教材改善に活用する方針。

(3) LMS 運用の技術的課題

- 受講履歴の表示・再生途中保存機能の一部不具合が見られたため、ベンダーと調整中。
- 動画視聴後のアンケート連動が動作しない事例があり、調査中。
- 動作確認用のテスト ID を発行し、各委員で検証を進める。

4. 著作権・法務・チェック体制の確立

- 引用資料(文部科学省報告書・大学機関資料・民間調査報告等)について、出典表記を統一。
- スライド下部に「出典:文部科学省〇〇年度調査」などを明示するルールを制定。
- 外部資料や画像使用時は、出典許諾を原則取得。
- **チェック分担体制:**
 - 内容・学術面:秋本・沖
 - 技術・LMS 面:伊藤
 - 法務・著作権面:山根
- 修正版はバージョン番号を付し、更新履歴をクラウド上で管理。
- 編集・修正ログを残し、改訂履歴を委員会で共有する運用へ移行。

5. アンケート・修了証・評価体制

- **アンケート構成:**
 - ①内容理解度、②講師・教材の質、③運営評価、④満足度、⑤自由記述の 5 区分。Google フォーム形式で実施予定。
自由記述には改善提案・今後希望するテーマを尋ねる項目を設ける。
- **修了証の発行:**
 - LMS で受講率・テスト結果を集計し、合格者に電子修了証を発行。
 - データは全専研事務局で一元管理。
 - 将来的には認定番号・QR コードを付与する方向で検討。
- **成果の活用:**
 - アンケート分析結果を年度末報告書に反映。
 - 次年度講座(令和 8 年度版)の改訂に活かす。

6. 今後の展開と収益化方針

- 本年度は「検証講座」として位置づけ、実施結果を基に正式版を策定する。
- 令和8年度以降：
 - 完成版を恒常事業としてオンライン展開。
 - 有償化(参加費制・個人受講制)を検討。
 - 文部科学省も教育研修事業の自立運営を容認済み。
- 事業運営上の整理：
 - 法人化(一般社団法人など)による収益管理を検討。
 - 収支報告・謝金支出・著作権管理を明確化する必要あり。
 - 収益配分ルールは委員会で次年度初頭に協議予定。
- 広報・普及：
 - 全専研ウェブサイト、加盟校宛メール、SNS(X・Facebook)を活用し告知。
 - 広報素材(ポスター・告知動画)を年明けまでに制作。
- 理事会報告：
 - 本講座の成果と次年度方針を理事会および文科省担当者へ報告予定。

7. FD／SD 関連セミナーの準備・進捗

(1)開催概要

- FD セミナー:東京=11月13～14日、福岡=11月18～19日
 - 主題:「自己点検・評価」「学校関係者評価」事例紹介
- SD セミナー:東京=12月1～2日、福岡=12月10～11日
 - 主題:「中期事業計画策定」「評価と改善の実践」

(2)講座概要

- 各会場ともグループワークを含む双方向型セミナー。
- 既存ガイドライン・チェックリストを再構成し、共通資料として配布。

(3)事務連携・来賓対応

- 文部科学省担当(塩谷氏)への事前説明を行う。
- 開会挨拶や閉会挨拶の順序を調整。
-
- 会場設営図および資料配布フローを事務局が整理。

	<p>8. 今後の課題・対応計画</p> <p>(1) 技術面</p> <ul style="list-style-type: none">• LMS 動作確認用 ID を委員へ発行。• 再生不具合・テスト連動不備を検証し、11 月上旬に改善。• システム操作マニュアルを受講者向けに整備。 <p>(2) 運営面</p> <ul style="list-style-type: none">• 動画教材の再編集(音声調整・図表修正)を 11 月中旬までに完了。• 受講者アンケート集計テンプレートを事務局で作成。• 講座終了後 1 週間以内に速報版を委員へ共有。 <p>(3) 法務・著作権・契約</p> <ul style="list-style-type: none">• 外部講師との契約書様式を更新(著作権条項を明記)。• 今後の販売展開を想定し、教材の権利帰属を整理。• 出典管理簿を作成し、年度末報告書に添付。 <p>(4) 広報・普及</p> <ul style="list-style-type: none">• SNS・ホームページでの発信を強化。• 成果報告を映像形式で発表する案も検討。• 他団体(専門職大学協会・私学教育研究所等)との連携も模索。 <p>(5) 次回委員会</p> <ul style="list-style-type: none">• 開催予定:11 月 25 日 10~12 時 オンライン• 議題:①講座実施結果報告、②理解度テスト試行報告、③次年度計画案。• 各委員の分担(講師、広報、報告書執筆)を正式決定予定。
配布資料	